

(様 式 2)

平成26年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊 鷹 丸 (国 際 水 産 資 源 研 究 所)

2 総トン数・馬力数 887トン 4,000馬力

3 調 査 名 本州南方域小型鯨類目視調査
(予 定 し て い る 予 算 科 目 名 : 水 産 庁 国 際 資 源 評 価 等 推 進 委 託 事 業 鯨 類 サ ブ ユ ニ ッ ト)

4 調 査 期 間 平 成 2 6 年 5 月 1 4 日 ~ 平 成 2 6 年 6 月 2 日 (2 0 日 間) (航 海 数 : 1 航 海)

5 担 当 研 究 所 等 国 際 水 産 資 源 研 究 所 外 洋 資 源 部 鯨 類 資 源 グ ル ー プ
責 任 担 当 者 : 金 治 佑
電 話 : 045-788-7513

6 乗船調査員等

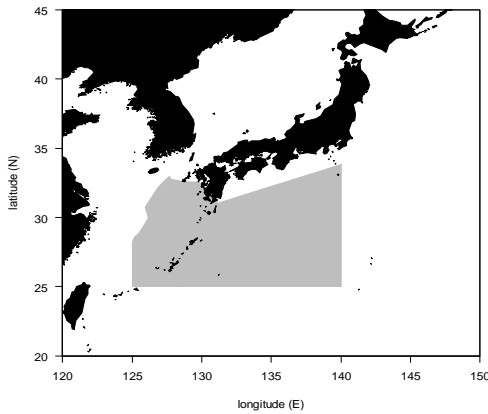
氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	未定	国際水産資源研究所 5月14日 ~ 6月2日
目視専門観察員 :	未定(3名)	水研センター契約職員 5月14日 ~ 6月2日
契約職員 :	未定(1名)	水研センター契約職員 5月14日 ~ 6月2日
:	:	~
:	:	~

7 調 査 目 的 コピレゴンドウ、ハンドウイルカ等いるか漁業対象種について、資源量推定値の見直しに必要な目視データの収集を行う。併せて、これら対象種の個体群構造や分布・回遊を把握するために、バイオプシー調査と衛星標識調査を実施する。

- 8 調 査 項 目
- ① 海 洋 観 測 : CTD観測
 - ⑦ 目 視 調 査 : 鯨類の資源量調査
 - ⑨ その 他 調 査 : 鯨類への衛星標識装着
 - ⑨ その 他 調 査 : 鯨類のバイオプシーによる表皮採取
 - ⑨ その 他 調 査 : 鯨類の写真撮影による個体識別

9 調 査 海 域 本州南方域に設定した以下の海域のうち他国EEZを含まない部分

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
5月14日	清水港出港		1			
5月15日	調査開始			18		
6月1日	調査終了		1			
6月2日	清水港入港					
	合計		2	18		

12 消費燃油予定量 油種: 重油 軽油 消費量 96 KL

(様 式 2)

平成26年度 調査船調査計画書

- 1 船 名 俊 鷹 丸 (国 際 水 産 資 源 研 究 所)
- 2 総トン数・馬力数 887 トン 4,000 馬力
- 3 調 査 名 南西諸島クロマグロ稚魚モニタリング技術開発調査
(予 定 し て い る 予 算 科 目 名 : 国 際 資 源 調 査 委 託 費 、 交 付 金 な ど)
- 4 調 査 期 間 平 成 26 年 6 月 11 日 ~ 平 成 26 年 7 月 15 日 (35 日 間) (航 海 数 : 2 航 海)
- 5 担 当 研 究 所 等 国 際 水 産 資 源 研 究 所
責 任 担 当 者 : 阿 部 寧
電 話 : 054-336-6033

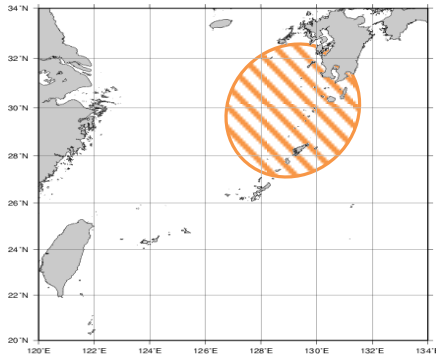
- 6 乗船調査員等
- | 氏 名 | 所 属 | 期 間 |
|-----------------|-----------|---------------|
| 研究所等職員 : 未定(2名) | 国際水産資源研究所 | 6月11日 ~ 7月15日 |
| 研究所等職員 : 未定(2名) | 中央水産研究所 | 6月11日 ~ 7月15日 |
| 契約職員 : 未定(2名) | 国際水産資源研究所 | 6月11日 ~ 7月15日 |

- 7 調 査 目 的 南西諸島産卵場でふ化・成長したクロマグロ稚魚が集まり、群れが太平洋側及び日本海側に分岐する屋久島四方海域を中心とする九州南西沖・薩南諸島周辺海域において、クロマグロ稚魚の分布・成長・摂餌などの生物学的知見および水温・塩分・潮流などの海洋学的知見を収集し、本種の初期加入量の早期推定に繋げるためのモニタリング技術を開発する。

- 8 調 査 項 目
- ① 海洋観測 : CTD観測(約60点)、ADCP観測
 - ② 基礎生産量調査 : クロロフィル測定(約60点)
 - ⑤ 漁獲調査 : 表中層トロール(約60点)
 - ⑨ その他調査 : 一般気象・海象観測

- 9 調 査 海 域 九州南西沖・薩南諸島周辺海域

- 10 調 査 海 域 図



- 11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
6月11日	清水港出港		3			
6月13日	調査開始			13		
6月26日	長崎港入港	3				
6月29日	長崎港出港			13		
7月12日	調査終了		3			
7月15日	新潟港入港					
	合計	3	6	26		

- 12 消費燃油予定量 油種: 重油 消費量 193 KL

(様 式 2)

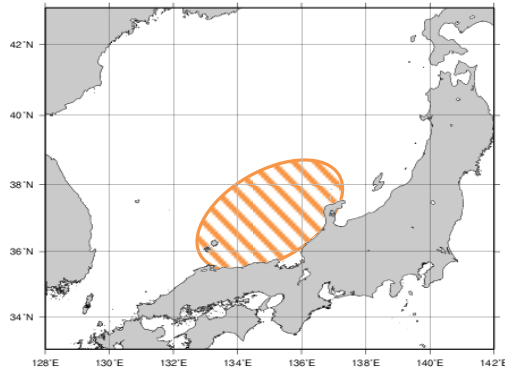
平成26年度 調査船調査計画書

- 1 船 名 俊 鷹 丸 (国 際 水 産 資 源 研 究 所)
- 2 総トン数・馬力数 887 トン 4,000 馬力
- 3 調 査 名 日本海クロマグロ仔魚減耗要因調査
(予 定 し て い る 予 算 科 目 名 : 国 際 資 源 調 査 委 託 費 、 交 付 金 な ど)
- 4 調 査 期 間 平 成 26 年 7 月 18 日 ~ 平 成 26 年 7 月 30 日 (13 日 間) (航 海 数 : 1 航 海)
- 5 担 当 研 究 所 等 国 際 水 産 資 源 研 究 所
責 任 担 当 者 : 阿 部 寧
電 話 : 054-336-6033
- 6 乗 船 調 査 員 等
- | 氏 名 | 所 属 | 期 間 |
|----------|------------------|---------------|
| 研究所等職員 : | 未定(2名) 日本海区水産研究所 | 7月18日 ~ 7月27日 |
| 研究所等職員 : | 未定(2名) 国際水産資源研究所 | 7月18日 ~ 7月30日 |
| 契約職員 : | 未定(2名) 国際水産資源研究所 | 7月18日 ~ 7月27日 |
- 7 調 査 目 的 クロマグロの日本海産卵場の重点海域である隠岐諸島～能登半島で、クロマグロ卵・仔魚の分布・成長・摂餌などの生物・生態学的知見および水温・塩分・潮流・プランクトン量などの海洋学的知見を収集し、本種の仔魚減耗に係る要因を明らかにする。

- 8 調 査 項 目
- ① 海 洋 観 測 : CTD観測(約50点)、ADCP観測
 - ② 基礎生産量調査 : クロロフィル測定(約50点)
 - ⑤ 漁 獲 調 査 : リングネット(約50点)
 - ⑨ そ の 他 調 査 : 一般気象・海象観測

9 調 査 海 域 日本海(隠岐諸島～能登半島)

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
7月18日	新潟港出港		2			
7月19日	調査開始			8		
7月27日	金沢港入港					資材搬出
7月27日	金沢港出港		3			
7月30日	清水港入港					
	合計		5	8		

12 消費燃油予定量 油種: 重油 消費量 72 KL

平成26年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊 鷹 丸 (国 際 水 産 資 源 研 究 所)

2 総トン数・馬力数 887トン 4,000馬力

3 調 査 名 オホーツク海イシイルカ目視調査
(予 定 し て い る 予 算 科 目 名 : 水 産 庁 国 際 資 源 評 価 等 推 進 委 託 事 業 鯨 類 サ ブ ユ ニ ッ ト)

4 調 査 期 間 平 成 2 6 年 8 月 7 日 ~ 平 成 2 6 年 9 月 1 6 日 (4 1 日 間) (航 海 数 : 1 航 海)

5 担 当 研 究 所 等 国 際 水 産 資 源 研 究 所 外 洋 資 源 部 鯨 類 資 源 グ ル ー プ
責 任 担 当 者 : 木 白 俊 哉
電 話 : 045-788-7511

6 乗船調査員等

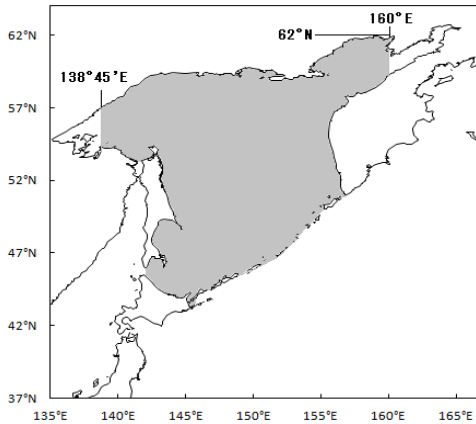
氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	未定	国際水産資源研究所 8月7日 ~ 9月16日
目視専門観察員 :	未定(3名)	水研センター契約職員 8月7日 ~ 9月16日
契約職員 :	未定(1名)	水研センター契約職員 8月7日 ~ 9月16日
オブザーバー :	未定(1名)	ロシア人(研究者) 8月7日 ~ 9月16日
オブザーバー :	未定(1名)	ロシア人(沿岸警備当局) 8月7日 ~ 9月16日

7 調 査 目 的 東日本大震災の被害を被った小型鯨類突棒漁業の主要対象種であるイシイルカについて、震災後の資源動向を把握し適切な管理に繋げるため、対象資源の主分布域であるオホーツク海の資源量推定値の更新が求められており、その為に必要な目視データを収集することを目的とする。同時に、ミンククジラ等大型鯨類資源の管理に必要な目視データの収集、バイオプシー採取、個体識別写真撮影も併せて行う。実施にあたって、ロシアEEZ入域許可とロシア人オブザーバー受け入れ経費が必要である。

8 調 査 項 目 ⑦ 目 視 調 査 : 鯨 類 の 資 源 量 調 査
⑨ そ の 他 調 査 : 鯨 類 の バイオプシー調査、鯨類の個体識別調査

9 調 査 海 域 オホーツク海

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
8月7日	清水港出港		3			
8月10日	調査開始			16		
8月25日	調査終了		1			
8月26日	網走港入港	1				
8月28日	網走港出港		1			
8月29日	調査開始			16		
9月13日	調査終了		3			
9月16日	清水港入港					
	合計	1	8	32		

12 消費燃油予定量 油種: 重油 軽油 消費量 197 KL

平成26年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊 鷹 丸 (国 際 水 産 資 源 研 究 所)
 2 総トン数・馬力数 887トン 4,000馬力
 3 調 査 名 三陸沖サメ類資源生態調査
 (予 定 し て い る 予 算 科 目 名 : 水 産 庁 委 託 国 際 資 源 調 査 か じ き ・ さ め サ ブ ユ ニ ッ ト)
 4 調 査 期 間 平 成 2 6 年 9 月 3 0 日 ~ 平 成 2 6 年 1 0 月 2 7 日 (2 8 日 間) (航 海 数 : 1 航 海)

5 担当研究所等 国際水産資源研究所 国際海洋資源研究員
 かつお・まぐろ資源部まぐろ漁業資源グループ
 責任担当者 : 余川 浩太郎 (国際海洋資源研究員)
 電 話 : 054-336-6045

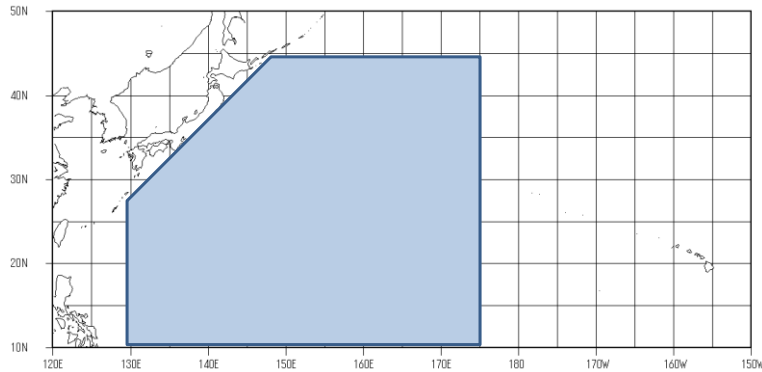
6 乗船調査員等	氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	余川 浩太郎	国際水産資源研究所	9月30日 ~ 10月27日
研究所等職員 :	甲斐 幹彦	国際水産資源研究所	9月30日 ~ 10月27日
研究所等職員 :	仙波 靖子	国際水産資源研究所	9月30日 ~ 10月27日
契約職員 :	塩崎 航	国際水産資源研究所	9月30日 ~ 10月27日
契約職員 :	未定	国際水産資源研究所	9月30日 ~ 10月27日
そ の 他 :	未定	国際水産資源研究所	9月30日 ~ 10月27日

7 調 査 目 的 三陸沖ではえ縄により漁獲されるヨシキリザメ、アオザメ等主要サメ類は、雌雄別成長段階別で棲み分けを行いながら季節回遊を行っている。この分布様式を解明することにより、統合モデルを用いたこれら資源の資源解析においてより現実に近い、精度の高い解析結果を得る事が期待される。そこで本調査では、これらサメ類を実際にはえ縄で漁獲し、各種標識を装着する事で分布回遊パターンを調べる共に、漁場に於いて海洋調査及び餌生物調査を平行して行い、これらサメ類の分布様式を規定している環境要因を検討する為のデータ、標本および情報を収集する。

- 8 調 査 項 目
- ①海洋観測 : CTD、XCTD、ADCP、採水、測深による海洋調査
 - ②採集調査 : 中層トロール、ネット類等による餌生物調査
 - ③漁獲調査 : はえ縄、中層トロールによる漁獲調査
 - ④標識放流 : サメ類への電子標識、通常標識装着による分布回遊調査

9 調 査 海 域 北西太平洋

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
9月30日	清水港出港		1			
10月1日	調査開始			26		
10月26日	調査終了		1			
10月27日	清水港入港					
	合計		2	26		

12 消費燃油予定量 油種: 重油 軽油 消費量 176 KL

(様 式 2)

平成26年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊 鷹 丸 (国 際 水 産 資 源 研 究 所)

2 総トン数・馬力数 887トン 4000馬力

3 調 査 名 亜熱帯域における小型カツオ分布調査
(予定している予算科目名: 国際資源評価等推進事業 補助費)

4 調 査 期 間 平 成 27 年 2 月 3 日 ~ 平 成 27 年 3 月 2 日 (28日間) (航海数: 1航海)

5 担当研究所等 かつおグループ
責任担当者 : 清藤秀理
電 話 : 054-336-6043

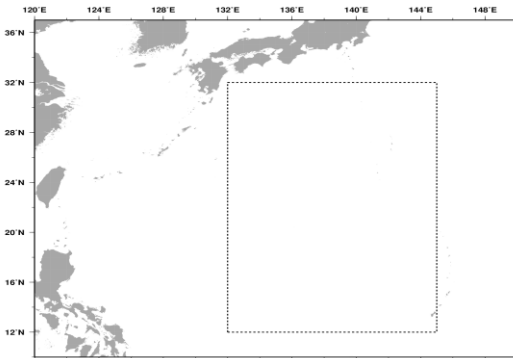
6 乗船調査員等	氏 名	所 属	期 間		
研究 所 等 職 員 :	清藤秀理	かつおグループ	2月3日	~	3月2日
研究 所 等 職 員 :	未定	かつおグループ	2月3日	~	3月2日
研究 所 等 職 員 :	未定	中央水産研究所	2月3日	~	3月2日
そ の 他 :	未定		2月3日	~	3月2日
そ の 他 :	未定		2月3日	~	3月2日

7 調 査 目 的 日本近海へのカツオ来遊元である亜熱帯域において、40cm前後のカツオ分布深度を明らかにするために、音響調査とあわせて中層刺網や釣漁具により採集することを試みるとともに、水温、塩分、クロロフィルa、植物プランクトン、動物プランクトンの鉛直分布調査をあわせて実施する。

- 8 調 査 項 目
- ① 海 洋 観 測 : CTD, ADCP
 - ② 基 礎 生 産 量 調 査 :
 - ③ フ ラ ン ク ト ン 調 査 : ノルパック
 - ④ 底 質 ・ ベ ン ト ス 調 査 :
 - ⑤ 漁 獲 調 査 : 釣漁具, 中層刺網調査, 中層トロール調査, 2mリングネット
 - ⑥ 魚 探 調 査 : ソナー・音響調査
 - ⑦ 目 視 調 査 : 鳥, 魚群探索
 - ⑧ 測 器 等 調 査 :
 - ⑨ そ の 他 調 査 :

9 調 査 海 域 1. 北緯12度以北、北緯32度以南、東経132度以東、東経145度以西の海域(ただし、外国の200海里水域を除く)

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
2月3日	清水港出港		6			
2月3日	調査開始			12	2	
2月26日	調査終了		6			
3月2日	清水港入港					
	合計	0	12	12	2	

12 消費燃油予定量 油種: 重油 軽油 消費量 171 KL